

## 持続可能な長期宿泊体験活動に関するモデル校事業の検証結果について

## １ モデル校事業の検証について

## （１）方法

セカンドスクールにおいて育成を目指す３つの資質・能力（自然や文化を愛する心、人間関係形成・社会参画、問題解決能力・情報活用能力）に関する質問紙調査を小学５年生・保護者・教員を対象に行い、モデル校とその他の実施校の回答を比較した。

小５	782人（109名）
保護者	—（57名）
教員	97人（17名）

※網掛け（ ）内の数字はモデル校の各人数

## （２）結果

３つの育てたい資質・能力に関する項目について、小学５年生が「セカンドスクールの前後でどのような変化があったか」を全て選ぶように回答した結果を上位３項目にまとめた。

## ア 自然や文化を愛する心

	１位	(%)	２位	(%)	３位	(%)
モデル校	自然に親しみを感じた	55	自然を守る大切さを考えた	55	命の大切さ、生き物への関心	48
他の実施校		64		64		48

## イ 人間関係形成・社会参画

	１位	(%)	２位	(%)	３位	(%)
モデル校	自分たちの決めた約束やルールを守るようになった	76	我慢したり努力したりできるようになった	66	自分の事は自分でするようになった	63
他の実施校		73	自分の事は自分でするようになった	64	我慢したり努力したりできるようになった	62

## ウ 問題解決能力・情報活用能力

	１位	(%)	２位	(%)	３位	(%)
モデル校	身近な自然やものに「なぜだろう？」と疑問をもつようになった	53	現地のことをあらためて深く調べたくなった	49	体験や活動から新しい課題を見つけて、次の課題につなげることができた	49
他の実施校		52	事前に調べたことを体験や活動にいかすことができた	47		46

## エ 肯定的評価について

質問項目 ・小学５年生「セカンドスクールは楽しかったですか」

- ・保護者 「あなたのお子さんはセカンドスクールについて、どう感じたようでしたか」
- ・教員 「セカンドスクールについて、どのように感じた子どもたちが多かったと思いますか」

調査実施年度		小学５年生 (%)	保護者 (%)	教員 (%)
令和７年度	モデル校	76.1	75.4	82.4
	他の実施校	72.9	—	80.4

## &lt;参考&gt;同質問の過去の推移

平成２８年度	73.9 【391】	76.3 【546】	81 【211】
平成２３年度	79.3 【690】	74.0 【1142】	73.4 【203】

※【 】内の数字は回答人数

（裏面あり）

## 2 モデル校事業について

### (1) 学校・実施時期・場所・参加児童数

モデル校	実施時期	場所	参加児童数
本宿小学校	9月18日(木)～24日(水)【6泊7日】	新潟県魚沼市	58名
千川小学校	9月4日(木)～10日(水)【6泊7日】	新潟県魚沼市	60名

### (2) 行程例(本宿小)

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
<div>午前</div> 出発式 八海山ロープウェイ <div>午後</div> 開校式 自己紹介・ゲーム <div>夜</div> 学びの時間	<div>午前</div> 北辰小交流 <div>午後</div> 座禅体験 <div>夜</div> 星空観察	<div>午前</div> 稲刈り体験 <div>午後</div> わら細工づくり 絵葉書作り <div>夜</div> 学びの時間	<div>午前</div> 三国川ダム見学 <div>午後</div> 雪室ファクトリー見学 <div>夜</div> 感謝の会準備	<div>午前</div> 課題別学習 <div>午後</div> 後山ぶな林散策 <div>夜</div> 感謝の会リハーサル	<div>午前</div> 塩沢宿体験 牧之記念館見学 <div>午後</div> 感謝の会(指導員) <div>夜</div> バーベキュー 感謝の会(宿)	<div>午前</div> 郷土食づくり 閉校式 <div>午後</div> 帰校式

### (3) 取組んだ学校の声

- ・6泊7日は楽しいことだけでなく、けんかや寂しさもあったが、その分仲間との絆が深まった。毎日の予定を意識して行動する習慣が身に付き、自分のことを自分でやる力が付いたと感じた。全てが貴重な経験になった。(児童)
- ・6泊7日のセカンドスクールは、特に整理整頓の習慣化という点で、従来の5泊6日では達成しきれなかったであろう児童の確かな成長がみられた。しかしながら、受け入れ先や教職員の負担増、そして生活指導員の確保といった課題もみえた。今後のセカンドスクールを検討するにあたっては、児童の成長と、実施に関わる受け入れ先、教職員の負担のバランスをよく考え、より持続可能で効果的な形を探っていく必要があると考える。(教員)

## 3 今後について

- ・令和8年1月24日(土)に開催する第19回むさしの教育フォーラムにて、モデル校や中学校の実践例など、本内容を含む教育効果の調査結果を報告する。またパネルディスカッションを通して、今後のセカンドスクールのあり方を募る。
- ・教育フォーラムの内容をいかし、令和8年度も継続して持続可能な長期宿泊体験活動に関するモデル事業を本宿小、千川小にて実施し、事業の効果検証をさらに進める。